

平成 24 年度国立大学図書館協会地区協会助成事業報告書（東京地区）

地区名	東京地区（主担当大学：一橋大学）
事業名	職員企画による研修 「図書館だけど、図書館じゃない、『未来の大学図書館』」
事業目的・趣旨	<p>東京地区国立大学図書館の若手職員により、以下の研修を企画し運営する。</p> <p>図書館の理想像を語る時、その背景のひとつに利用者への「もてなし」という視点が存在する。それでは、おもてなしの心に基づいた、理想の、さらには最強の図書館とは何だろうか？また、各々の図書館職員の中にある図書館像が今の図書館の限界であり、新たなサービス考案の際にも知らず知らずのうちにその枠内に収まってはいないだろうか。</p> <p>近年既存の図書館の枠組みを超えた「図書館」が生まれている。それらの運営者をファシリテーターに迎え、「利用者にとって本当に必要とされている」図書館や図書館サービスについて、既存の図書館の枠組みを超え、参加者の図書館観の再確認および新たな大学図書館像を模索するワークショップを開催する。</p> <p>また、グループワークを通じて、若手からベテランまで多様な年齢層や役職との意見交換を活発に行うことが可能な場を提供するとともに、iPadを実践的に使用することにより、参加者がその操作に親しみ、参加者の所属する図書館での導入の検討およびさらなる活用のきっかけづくりとしたい。</p>
実施内容	<p><ワークショップ当日></p> <p>実施日　　：平成 25 年 2 月 20 日（水）</p> <p>実施場所　：東京外国語大学附属図書館ラーニングコモンズ@ラゴ</p> <p>研修参加者：30 名</p> <p>■ 概要</p> <p>10:00-10:15　開会・iPad の使用方法説明</p> <p>10:15-12:00　ワークショップ前編　コーディネータ：館野泰一氏</p> <p>12:00-13:00　昼食</p> <p>13:00-13:00　講演　中村真広氏（co-ba library）</p> <p>13:30-14:00　講演「誰でも図書館が作れる時代を考える　リブライズが目指す新しい図書館の形」地蔵真作氏（リブライズ）</p> <p>14:00-15:45　ワークショップ後編　コーディネータ：館野泰一氏</p> <p>15:45-17:00　発表・まとめ・振り返り</p> <p>■ 研修詳細</p>

	<p>・ワークショップ前編 コーディネータ：舘野泰一氏</p> <p>午前中のワークでは、メタファーを用い「〇〇みたいな図書館」(ex. デイズニーランドみたいな図書館) というように理想の図書館を表現し、グループごとにお互いに理想の図書館について話し合うワークを行った。出てきたアイデアはポストイットと模造紙でまとめた。</p> <p>・講演</p> <p>ワークショップ前編で考えた図書館観から新たなアイデアに飛躍するための刺激として、図書館の外部でありながら図書館のような場を提供している二つの取り組みについてご講演いただいた。</p> <p>・ワークショップ後編 コーディネータ：舘野泰一氏</p> <p>ワークショップ前編で参加者が考えたメタファーに基づいてグループを組み替え (ex. くつろぎと出発グループ、カフェと墓場グループなど)、理想の図書館を考えるワークを行った。</p> <p>・発表・まとめ・振り返り</p> <p>参加者は、ワークショップ後編の議論に基づき、グループごとに理想の図書館の名前、サービスの内容を説明し、そのサービスのひとつを寸劇で表現した。</p> <p><企画・準備></p> <p>平成 24 年 9 月に開催したキックオフミーティングを皮切りに、平成 25 年 2 月の研修実施まで計 8 回のミーティング、SNS やメーリングリストでの打ち合わせを行った。また研修全体のコーディネータに舘野泰一氏を迎え、ワークショップの内容や進め方、参加者への事前調査等について詳細な事前打ち合わせを行った。</p>
<p>事業の成果 (アンケート調査結果、事業への意見・感想等)</p>	<p><ワークショップ当日></p> <p>上に示した本事業の四つの目的から本事業の成果を評価する。なおこの評価は、企画メンバーが研修後に記録した研修中のエピソード、参加者から口頭で聞いた感想、参加者へのアンケート回答に基づく。</p> <p>目的 1. 参加者が自身の図書館観について再発見し、他の参加者の図書館観の違いを理解すること、に関する評価</p> <p>参加者からの感想には、「自分の理想が思いがけないところにありました。(略) 一つの妙案がスイッチとなり、次々と案がでてくるのが面白かった。」などの自分の図書館観を再発見するとともに他の参加者の図書館観との違いを理解したと考えられる感想が見られ、ほかにも同様の感想が 10 例以上みられたことから、目的 1 は達成されたと考えられる。</p>

目的2. これまで持っていた図書館観を抜け出だして、新たな大学図書館像を発想すること、に関する評価

参加者の図書館観が揺さぶられる体験として、講演を聴いて自分もっている図書館観から抜け出して発想することの有効性に気がついたという意見が何件か見られた。また、各グループの最終的な発表ではライブラリ・クルーズ、図書館総選挙、カップドキア洞窟図書館などこれまでの図書館にはない斬新なアイデアが生まれた。以上のことから、グループワークと講演を通して各人が持つ複数のメタファーがぶつかり合い、既存の図書館観が揺さぶられた結果、新たな図書館像を発想することができ、目的2も達成されたと考えられる。

目的3. 業務経験年数が異なる図書館職員と議論を行うこと、に関する評価

最初のグループ分けの段階で業務経験年数の長い参加者の方を各グループに分散したため、業務経験が異なるメンバーとの議論は実現したと考えられる。また参加者からも、「経験年数が長い方とも意見交換できたのが、良い機会だった。」という感想が見られたためこの目的もおおむね達成されていたと考えられる。

目的4. iPadを使用し、その可能性を体感すること、に関する評価

本研修では、iPadのカメラ機能と iCloudのフォトストリーム機能を使用することで、各グループのワークの内容をリアルタイムで共有できる環境をつくった。それによって iPadの可能性を感じることができたという点で一定の意義があったと考えられる。ただし、アンケートに「もっと iPadを活用しなかった。」という意見が見られたことから考えると、広報の中で iPadの要素が目立ちすぎていたことが考えられ、広報にさらなる工夫が必要だったという点が反省点として上げられる。また、iPadの活用方法に関して企画担当者間で十分に議論できていなかったことも、研修内容と参加者のニーズとのずれにつながったと考えられる。

以上が本研修の目的に対する評価である。次に参加者の満足感について述べる。

アンケート回答は以下のような結果となった。質問項目は、「当てはまる=4」～「当てはまらない=1」の四件法で、内容は期待通りだったか、開催時期は適切か、時間数・日数は適切かという質問に答えるものであった。どの質問も、「当てはまる=4」「やや当てはまる=3」をあわせると有効回答数30中、28~29になり、以上3点に関して適切であったことが明らか

0. はじめに

平成24年度職員研修「未来の大学図書館」では、参加者の満足度や本研修の改善点を知るために、参加者全員に対してアンケートを行った。

開催日：2013年2月20日（水）

開催地：東京外国語大学附属図書館

参加者数：30

有効回答数：30

[本研修の目的]

1. 参加者自身の図書館観の明確化と他の参加者の図書館観の違いを理解すること。
2. これまで持っていた図書館観を抜け出だして、新たな大学図書館像を発想すること。
3. 業務経験年数が異なるメンバーと議論を行うこと。
4. iPadを使用し、その可能性を体感すること。

上記の目的を果たしているか、回答の検証を行う。

1.参加者について

算出方法：

地域：大学・機関の所在地

職務経験年数：申込時に職務経験年数を調査し、5年ごとにカテゴリー化

参加理由：自由記述をキーワード別にカテゴリー化 ※1つの回答に複数のキーワードがある場合は複数回カウント

地域	人数	%	職務経験年数(年)	人数	%	参加動機	人数	%
東京	22	73	1～5	20	67	図書館の未来	14	41
神奈川	2	7	6～10	4	13	スキルアップ	7	21
茨城	1	3	11～15	2	7	参加者との交流	3	9
京都	1	3	16～20	1	3	iPad	2	6
山形	1	3	21～25	3	10	講演	2	6
千葉	1	3	総計	30	100	若手の運営	2	6
福岡	1	3				ラーニング・コモンズ	1	3
兵庫	1	3				ワークショップ	1	3
総計	30	100				総計	34	100

東京で開催したため東京地区からの参加が大部分を占めた一方で、研修期間が短期間であるにもかかわらず全体の約3割は、東京地区以外からの参加者だった。参加動機によると、参加者の4割が本研修テーマである「未来の大学図書館」を参加動機に挙げている。一方、ワークショップや講演といった個々の内容に関心を示す率は低く、したがって広い地域からの参加者を獲得することができたのは、テーマの広報が一つのポイントであると思われる。

本研修では「3年後、5年後、10年後、あなたは「図書館」でどんな仕事をしていると思いますか？」などキャッチコピーを工夫した。こうした工夫が自由回答の記述にも反映されており、大変効果的だったと考えられる。

一方、3の目的として「業務経験年数が異なるメンバーと議論を行うこと」をコンセプトに研修を計画したが、実際は職務経験年数1～5年までの層の参加が多かった。これは研修企画者が若手である点に加え、広報や内容に、ベテラン層のニーズをくみ取った配慮が不足したためと考えられる。参加者層に適したデザイン・文言等の工夫をより熟考することが改善につながると考えられる。

参加動機(自由記述)
<p>3・5・10年後、自分が図書館でどんな仕事をしているかを考えること、またそのグループワークの手法に「類推(アナロジー)」を使用する点に関心を持ちました。研修の企画・運営が若手図書館員の手で行われている点にも惹かれ、参加を希望しました。</p>
<p>日常では、未来の大学図書館、そして本学の附属図書館はどうなっていくのか、何を目指していくかというテーマを思い浮かべることはありますが、考えることをつい後回しにしがちです。今回は多様な年齢層・大学の図書館員の方とお話できると知り、とてもいい機会だと思いました。これから具体的にどう仕事をしていくのか、考えるきっかけにしたいと思っています。また、講師の方々が運営されている「co-ba library」と「リプライズ」を存じ上げなかったため、それぞれの活動と講師の方が図書館についてどのように考えたり感じたりされているのかを伺いたいです。</p>
<p>若手職員が作る研修ということで、既存の枠に縛られない活発な議論ができることを期待しています。また、館野さんの作るワークショップに一度参加してみたいと思っていたことが参加動機の一つです。</p>
<p>ラーニング・コモンズに興味があるため</p>
<p>電子資料が勢力を伸ばしつつある図書館において、その役割が近年多岐化しているように思います。図書館という「場」の在り方が根本から変わろうとしている中、いったい図書館とはナニモノになるのか、ナニモノにしていくのか、新たな発想や刺激をいただきたいです。また自分自身がどのような図書館にしていきたいのか、を少しでも明確にしたいと思い参加いたします。</p>
<p>「未来の大学図書館」という言葉に興味を持ちました。大学図書館としての未来を、他の方がどのように捉えているのか勉強させていただきたいと思います。</p>
<p>大学図書館に特化した研修であること、そして職員が企画したということが最も大きな参加動機です。ぜひほかの館の方々と大学図書館の未来について語り合ってみたいです。「類推」が図書館の未来を考える手法としてどのように使われるのかもまったく予想できず、楽しみです。</p>
<p>図書館界は深く考えることなくトレンドに流されることが多い気がするので、大学図書館のすべきことについて、自分なりに考えるきっかけにしたい。</p>
<p>最近、今後の図書館(特に大学図書館)の運営方針の傾向について、コミュニケーション重視+ネット環境重視 / 孤独環境確保軽視+アナログ図書軽視という風潮があるようなのをなんとなくではあるが感じており、その実際の雰囲気や、どういった利用者がそれをどの程度歓迎するものなのか、そのあたりを知れたらありがたいと思ったから。</p>
<ul style="list-style-type: none"> - 図書館にどのような未来があるかを知るため - どのようなキャリアやスキルを持った人が参加していて、今後何を狙っているかについてを把握したい - 「キャリアパスファインダー」を構築するための調査
<p>「日頃、図書館の未来について考えたいけど時間がないという方、自分のいまの仕事の価値がわからなくなってる方、今ある図書館の価値を未来にもしっかりと伝えていきたいと考えている方」という研修案内にひかれました。特に数年先の仕事について考える際、どうしても「今の職場」の常識をもとに考えてしまう自分があるので、いろいろな視点、アイデアを植え付けたいと思います。</p>
<p>現在勤めている、非常に「昔ながら」の図書館を、これからどのように変化させていくかの参考にしたい。</p>
<p>近年、電子ジャーナルや電子ブックなど、図書館に来館しなくても資料を利用できるようになってきています。こうした変化を受けて図書館サービスも変えていく必要があると思っております。Webサービスの拡充やラーニングコモンズなど新しい取組を始めている図書館が増えてきてはいますが、手探りの部分が多いように思います。Webと本を用いてサービスを展開している講師の方の講演を伺ったり、グループ討議を行ったりすることで、新たな図書館サービスのヒントを得られたらと考えております。</p>

参加動機(自由記述)つづき

「将来大学図書館はどう変わっていくのか」、「私たち図書館職員の仕事は今後どうあるべきなのか」といったことについて、日々漫然と不安に思っています。そのため、この研修で、これらの問いについて考えるための材料を手に入れられれば・・・と思っています。

自然科学系の研究所図書室の場合、電子ジャーナルや電子ブックの利用、ILLもPDF取寄せと非来館型サービスが中心となっています。このような中で、図書館は、図書館職員は何をして行くべきなのか。このワークショップで、ファシリテータや他の図書館のみなさまと語り合い、気づき、大学図書館の「未来」を考えるきっかけにしたいと思っています。

リプライズに興味があつて講演を聞きたかつたので。また、3年後はともかく5年後10年後の図書館が想像がつかないので、他の方の意見を聞きたいと思った。

図書館職員として働き始めてもうすぐ2年半になります。やっと図書館全体の業務が見え始めた昨今、若手であることや一般企業での職歴をどのように業務に活かしていけばよいか考え始めました。そのヒントが見つければと思い、今回参加を希望させていただきました。

まだ図書館での業務経験が浅いため、他の図書館職員の方と話せる機会が欲しかった。また、グループワークを通じて大学図書館について考えることで、これから図書館職員として目指すべき指針のヒントが得られたらと思い参加を希望しました。

大学図書館職員の諸先輩方が、現状をどのように感じていて、どのような形にしていきたいのかを学び、自らの知見の糧としたいため

図書館での勤務経験が浅いため、様々な方々のお話をお伺いすることで、今後の業務の改善へと繋げたいです。

Twitter 広報を担当しているため、まず図書館広報と SNS について関心がありました。そのため、シェアライブラリーや Facebook に連携させたリプライズなどの取り組みのなかに日頃の業務に何か生かせる点があるかもしれないと、研修に参加することを決めました。

図書館に関する幅広い知識を得たい。図書館の将来のイメージをクリアにし、自身のキャリアに活かしたい。図書館関係者との交流を図りたい

私は、目録業務しか携わったことがなく、また、自分の興味もそちらに傾いてしまい、サービスや図書館の在り方というものについて考えることがあまりありません。そのため、いろいろな人の話を聞いて、考えをめぐらしたいと思い、参加しました。

将来の大学図書館のあり方について、他の図書館の方と意見を出し合える機会だったため。

大学図書館に求められているサービスやかたちが刻々と変化している中であつて自分もこのままではいけない、自分が所属する図書館ももっと何かできるのでは、という思いを日々持ちながらもではどうしたらいいか？と考えたときになかなか従来の「大学図書館」という枠から抜け出せない面があります。今回の研修テーマで他大学の図書館員の方々と意見を交換し合うことで、自分の凝り固まってしまった(かもしれない)発想力が新たな方向性を見いだせるのではないかと期待して参加させていただきたいと思います。

年配者も是非参加をと勧められて、あらためて開催要領を読んで、講演に興味をもつたため

テーマや講師の方のプロフィールなどから、今までにない切り口の研修になるのではと思い、参加を希望しました。図書館をとりまく環境がめまぐるしく変わっているため、新しいことを吸収し、考える機会にしたいと思います。

図書室に iPad を導入するかもしれないので、事前に iPad を操作してみたい。

図書館施設への iPad の持ち込みが増えているので、現時点で iPad ができることを把握しておきたいと考えました。

2. 研修後アンケート分析

①設問 1

	はい		いいえ		合計	1~2 へ○をつけた理由 ()内は 1、2 以外の場合
	4	3	2	1		
1.1 内容は期待していたものでしたか。	16	12	2	0	30	・あまり iPad には触れなかったのが ・iPad はもっといろいろ使えかなーと思ってたので (4: 寸劇は別にいらなかったのではないですか) (3: 良い意味で裏切られました) (5: 期待以上に収穫の多い内容だった) ※注: 4 以上の評価という意味と思われる
(%)	53	40	7	0	100	
1.2 開催時期は適切でしたか。	17	12	1	0	30	・年度末の少し忙しい時期に入っていたので (3: サービス系は春休みは忙しくないの)
(%)	57	40	3	0	100	
1.3 時間数・日数は適切でしたか。	25	4	1	0	30	・co-ba、リブライズをもっと聞きたい (4: もっと長いとダラけるし)
(%)	83	13	3	0	100	

内容・開催時期の満足度に着目すると、ともに 90%以上が満足と回答している。したがって本研修は概ねすべての参加者のニーズを満たしたといえる。しかし内容・時期ともに「大変良い=4」の回答が全体の約半分にとどまることに着目すると、これらの満足度は条件付きであり改善の余地があると思われる。

また内容について 2 以下の回答が見られた。その理由として iPad のワークが少なく、事前調査で「iPad」と回答した参加者のニーズを拾いきれなかった点があげられる。

この要因として次の 2 点を挙げられる。

1. 広報の中で iPad の要素が目立ちすぎていたことが考えられ、広報にさらなる工夫が必要であった。
2. 外部の講師を依頼する際に、企画側としての目的をより明確に説明する必要があった。

しかし、本研修では、iPad のカメラ機能とフォトストリーム機能を使用することで、各グループのワークの内容をリアルタイムで共有できる環境をつくった。それによって iPad の可能性を感じる事ができたという点で一定の意義があったと考えられる。

②設問2 この研修で一番印象に残ったことは何ですか？

算出方法：

自由記述をキーワード別にカテゴリー化 ※1つの回答に複数のキーワードがある場合は複数回カウント

印象に残ったポイント	回答数	%
講演	8	24
意見の多様性	7	21
発表	5	15
グループワーク	4	12
メタファー	4	12
交流	2	6
サービス	1	3
共有	1	3
資料の少なさ	1	3
発見	1	3
総計	34	100

研修の印象は回答にちらばりがあり、研修中のさまざまなパートで、参加者が強い印象を受けたことを示している。

「講演」および「意見の多様性」「発見」は1と2の目的に関連し、約半分の参加者この部分に印象を受けたと回答している。1,2に関しては企画者が意図した研修目的が、的確に参加者に伝わったと考えられる。

また、発表、グループワーク、メタファーといった研修を構成する要素についても印象も多くの参加者によって挙げられており、講師によってコーディネートされたワークが、有効に参加者に働きかけたことが分かる。

「資料の少なさ」は配布物の少なさへのコメントである。本研修では配布物が最小限であり、Ustream 配信画像と講師パワーポイントファイル、およびワークショップ内の作成物の写真が主だったが、参加者が持ち帰ることを考えると、講演者プロフィールや所属機関のパンフレット、グッズなど、参加者の理解を助ける補助資料が用意できればより有益だったかもしれない。

この研修で一番印象に残ったことは何ですか？
自分の理想が思いがけないところにありました。まとめのグループワークで考えをまとめる時、一つの妙案がスイッチとなり、次々と案がでてくるのが面白かったです。各グループの発表も大変興味深かったです。
いろいろなメタファーがあげられましたが、人とのつながりみたいなことが、基本にあるのかなと自分の中で再確認できたように思います。
図書館のサービスについて、多角的に考えることができた点、それを他の方々と共有できたことがとても印象に残りました。
メタファーを使って図書館観を見える化していく作業
コワーキングのお話を聞いて良かったです！ワークショップの手法自体がポータル研に似ているな、と思いました。ポータル研の成果ですね。
co-ba 講演の本の興味を通じたつながりの話がおもしろかったです。学生の議論スペースの重要性の話が盛り上がっているのも、それも良いけど、個人利用でおもしろいことも起こせるっていいよね！という話はおもしろかったです。
本(資料)以上に人に重きが置かれていること(co-ba library、リブライズともに)
「図書館」に対する観点、イメージ、メタファーが多種多様だったこと、講師の方々の視点も新鮮でした。
普段交流のない他大図書館の方と意見を出し合って議論を交わせたこと。とても刺激になりました！
最後の発表
意外にみんな「資料を読みたい」より「他者とつながりたい」欲求が高いんだなと感じてちょっとびっくりしました。私がわりと「資料さえ読めれば幸せ」なので。時代は変わっていくものですね。
各グループ、何かしらのコミュニケーションや知の循環のような要素が発表の中に含まれていたなと思いました。「本・人・場所」も共通だったと思います。
・メタファーが理念をよく表している、ということ。 ・図書館に対する考えが人それぞれ違うということ
最後の未来の図書館像発表。それぞれ異なる図書館観を持っていることが再実感でき、刺激になりました。
色々な方の図書館観が聞いて良かったです。
図書館外の方々がこれだけ図書館について考えていることが意外でした。
リブライズで一般民間に自分の蔵書を公開したい人が意外といるらしいとのお話があったことです。
・図書館の中にいるだけではダメで、外に出たり、外の人とつながって、改めて図書館の定義やサービスを見返してみる必要があると思いました。 ・プロセスを可視化することが実はユーザーが一番知りたいところかもしれない。 ・図書館員とユーザーの垣根をなくしていくこと、コラボレーションしていくことが、よいサービス提供への一番の近道だと思いました。

この研修で一番印象に残ったことは何ですか？ つづき
この人数だけでも多様な図書館観があるのが驚きでした
グループワークで自分の考える理想の図書館像を言語化できたこと。人の考える理想の図書館像を聞いたこと
専門家が存在するお手軽な図書館、という概念は面白いと思いました。教授の方々という最高の専門家がいる大学図書館でも、購入・管理を素早くできれば実現可能なのかと思いました。
中村さん、地藏さんのように図書館員でない立場から、図書館を考え、サービスや場を考えるという視点が面白かったです。Co-ba library やリブライズの視点を図書館サービスに生かしていけないか考えてみたいです。
イメージを共有することの大切さが強調されていたこと。研修のすすめ方自体が参考になった。新しい図書館やサービスをみんなで考えるときに有効なやり方だなと思った。
「未来の図書館」はどうあるべきかといった図書館観は多様にあると思いました。例えば、サービスを考えるとき“ゾーニング”と“あえて決めない方法”と反対の考え方がありますが、各図書館のタイプにより良い方を選択することが良いと思いました。
メタファーを使ってイメージを分析していくという手法がとても面白かった。
それぞれのメタファーの違い。実際の理想の違い。
最後の発表に関して、図書館員の方の極端な考えを伺うことができたのが一番印象で気でした。日頃の要求や理想を知ること、今後の活動の指針やスパイスとして考えてさせていただきたいと思います。
ワークショップ形式なのは存じておりましたが、配付資料の少なさに一瞬怖れをなしました。職場で共有したいので、そういう資料もあればうれしいなと(まあ Ust を見せればよいのかもしれませんが)
午前中の意見の出し合いから最後の発表に至るまでに様々な意見や考え方が出てきて非常に面白かったです。短い時間で一気にまとめていくのは良かったと思いました。
図書館の強み、弱みがはっきりしました。図書館的な活動(コワーキングなど)を運営されている方のお話を聞き、図書館にしかできないこと、図書館の足りない所が見えてきたと感じた。

③設問3 ご要望・ご提言、今後受けてみたい研修等があればご記入ください。

受けてみたい研修等があればご記入ください。
“未来”という少し遠い話だけでなく、もっと近い未来にどうしていくか、勤務図書館外で考えたり話し合う機会があれば、と思います。 今日は、本当にありがとうございました。
ぜひ若手職員向け研修の第2回を！むしろ企画から参加したいくらいです(笑)
若手だけで言いたいことを言い尽くす研修(図書館の将来、スキルアップ方法や制度、などなど)
今日のような話を、図書館の管理職層や大学一般職員の方々と話してみたいです。
本日の例示にあった企画の実地見学があればと思いました。
・研修でできたアイデアや企画案をブラッシュアップしたり、実現に向けたプランニングができるようなフォローアップ研修やワークショップ ・ベンチャー企業とのコラボレーション研修やワークショップ
特定のテーマに関する主要な文献等を輪読し、疑似サブジェクトライブラリアンを作る、と言ったような企画があれば参加してみたいです。
今日のように他の職業の方から見た図書館という話をもっと伺ってみたいです。
若手の参加を強調されたこの度の研修もとても素晴らしいですが、長く勤務された方のご意見もぜひ伺いたいという気持ちもあります。
FaceBook、Ust、シェア等のキーワードがでてきたので、ソーシャルメディア時代における図書館・図書館広報についての戦略的研修があれば受けてみたいです。

最後に、今後の研修のアイデアについても回答を得た。

本研修の第二弾としてのコンセプトとして、「若手だけ」「図書館の管理職層・大学一般職員」など参加者層を変えた企画の提案や、研修のアイデアをふくらませた形のフォローアップについての意見が出た。

また「他の職業」や「ベンチャー企業」とのコラボ企画についてもコメントがあった。